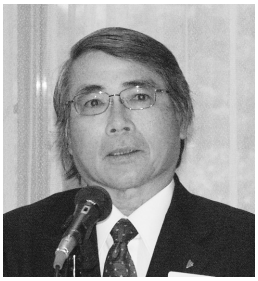
平成21年度琉球大学医学部附属病院および RyuMIC研修医との懇親会

理事　玉井　修

去る4月3日（金）午後6時から琉球大学医学部・がじゅまる会館（1階・ホール）に於いて、平成21年度琉球大学医学部附属病院およびRyuMIC研修医との懇親会が行われた。

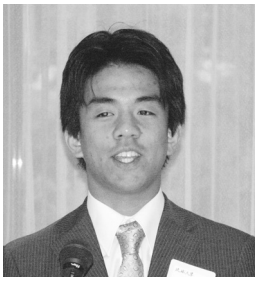
毎年、琉球大学医学部に於いて行われている新臨床研修医のためのオリエンテーションのなかで、医療を取り巻く現況や医師会の組織、活動内容について紹介し理解を深めてもらうという主旨で、宮城信雄沖縄県医師会長から「地域医療について」、真栄田常任理事から「医師会の事業と医賠責」の講演を行い、終了後に、本会主催の懇親会を行っている。

懇親会では、はじめに玉城副会長から開会の挨拶があり、続いて、宮城会長から「難関の国家試験を見事突破し、合格の日を迎えられた皆さん、おめでとうございます。これからは学生時代と違い、責任を伴うことを決して忘れないで下さい。そういう意味では、今までとは全く違った立場に立つことをご理解いただきたいと思います。医師としては、患者の気持ちが分かる医師に育っていって欲しい。また、しっかりとした知識や技術を身につけ、きっちとした臨床が出来るように是非頑張っていただきたい」と激励の挨拶を行った。

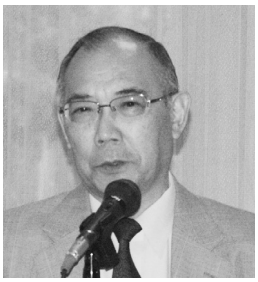


次に、須加原一博琉球大学医学部附属病院長から「先ほどは、宮城会長、真栄田常任理事から非常に分かり易く講話頂き、新研修医もドクターになったことを再認識し、社会的な責任を感じていることだろうと思います。そして、患者から学ぶことの大切さや患者中心の医療について身の引き締まる思いをしたのではないかと考えています。また、4月24日には、県医師会主催による群星沖縄、RyuMIC、県立病院群の3グループ合同

の歓迎会を企画していただけると伺っています。こういう会を催していただけることは、これからの大学病院、あるいは沖縄の医療にとって貴重な画期的なことではないかと考えています。お互いに連携を深め強くし、沖縄の医療の向上、日本の医療の向上に貢献できればと考えており、そう云う医師を育てることが出来ればと期待しているところであります」と述べられた。



その後、研修医を代表し下浦広之先生から「本日は、新研修医のために、このような席を設けていただいたことに、そして先輩方の温かい激励のことばに感謝しています。社会の複雑な環境変化と共に、医師不足など医療を取り巻く環境は厳しいものがあります。そして、今、医療は大きな変化を迫られてきているものと考えます。さらに、地域と密着した医療サービスの充実など与えられた課題を考えると、大きな想いでいっぱいになったりもします。しかし、僕たちがこの道を目指した時に持っていた期待や希望を失わずに、新たなに立ち向かっていこうという想いでいっぱいです。未熟な僕たちではありますが、先輩方の的確な指導と、時には叱責をいただき、いち早く一任前の医師になれるよう努力したいと思います」と決意の言葉があった。



続いて、新研修医の活躍を期待し乾杯の挨拶に立った佐藤良也琉球大学医学部長から「今、医学医療は社会的にたくさんの課題を抱えています。沖縄でも今後、徐々に問題が深刻化することを覚悟しなければなりません。こういった社会的な問題にどう対応していくか、私共の医学部でも今年から地域枠を設置し、7名の入学定員増を地元の高等学校出身者の中から選抜しました。しかし、この学生が卒業をし、実際に地域医療の現場で活躍するには、相当の時間を要することになるので、この間はやはり今年卒業をした研修生の皆さんを含め、社会的な課題に対して、しっかり使命感を持ち対応していただくことが重要だと思います。そう言う気持ちで、これからの研修に入っていただきたいと思います。

では、研修医の皆さんの研修が実り多いものになるよう、また、それを指導する先生方にとってもこの研修が実効性のある良い研修になることを祈念し乾杯したいと思います。乾杯！」と挨拶し、懇親に入った。

懇親会では、新研修医や指導医の先生、本会並びに地区医師会役員が多数参加し、終始和やかな雰囲気で親睦を深めていた。参加者は100名であった。

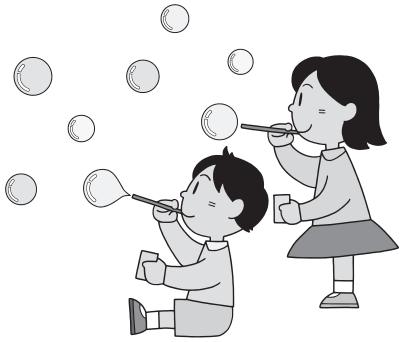
印象記

理事　玉井　修

琉球大学医学部附属病院で初期研修をする若い医師たちとの懇親会が琉球大学医学部のがじゅまる会館で開催された。今回医科の研修医は22名で昨年よりやや増加した印象である。フレッシュマン達はそれぞれに期待に胸を膨らませ、笑顔に一点の曇りも無いように見える。無事国家試

験を終え、晴れやかに先輩達に祝福されている彼らには前途洋々たる未来が開けている様に感じられるのだと思う。しかし、医師としてのスタートラインに立ったばかりの彼らには今後医療という重責を担うべく、厳しい自己鍛錬と、崇高な人格形成が求められてくる。ウイリアム・オスラー博士の『平静の心』を約20年ぶりに読み返してみた。まだ駆け出しの医師だった頃の自分はこの『平静の心』を教訓集として読んだ記憶がある。医師としてどの様に生きるべきかをこの本を読んで、学び取ろうとしていた。20年経った今読み返してみると、ウイリアム・オスラーの言葉が実は人としてどう生きるべきかを語っている事に気がつく。人の心はどの様にあるべきか、人の成長とは何なのか、生きることはどういう事なのか。20年前、姿勢を正して読んだ『平静の心』は退屈な金言集の様な印象であったが、今は友達と人生について語り合っている様な温かく穏やかな居心地の良さを覚える。難しい事ではなく、むしろ温かく語り、多くの事を許容する事の大切さを今更ながら考えさせられる本である。研修医の皆さんも、もし良かったら読んでいただきたい本の1冊である。

懇親会の司会を終えて、久しぶりに学舎である琉球大学医学部を散策した。友人達とよく無駄話をしていたベンチ、お昼休みにバレーボールをしていた中庭、疲れ切った体を引きずるように歩いていた病棟の廊下など全てが懐かしかった。昔のままの様子を止めているものも多いが、すっかり変わってしまったものも多い。気がつけば自分自身の髪も白くなり、注射薬のアンプルに書かれている文字もよく読めないほど老眼が入ってきている。これからの時間をかけて、私自身があの若い世代に何を残せるのだろうか、何を語ってあげれば良いのだろうか、果たして自分にそれだけのものがあるのだろうか、大きながじゅまるの木の下でそんな事を考えていると大学の職員が声をかけてくれた。「先生、2年ほど前、この木からハブが落ちてきた事があるそうですよ、気をつけてくださいね！」いっぺんに現実に返り、恐怖感と我が身可愛さにその木から遠ざかる自分をみつめ、まだまだ修行が足りないと反省しきりであった。



第1回那覇市立病院後期臨床研修終了式
第4回前期臨床研修修了証交付式
及び第6回臨床研修医採用辞令交付式

那覇市立病院　島袋　洋

新臨床研修医制度発足から6年が経過した昨今、臨床研修期間の短縮などが厚生労働省では取り沙汰されています。4年前より後期研修医（専修医）として全国各地の臨床研修医指定病院から、既に各地の医療機関に巣立っています。各先輩の先生方にも思うところは多々あると思いますが、当院では今年は後期研修医（専修医）、いわゆる専門医を目指す一人の医師としての5名が臨床研修の全てを終了し、第1回後期臨床研修終了式も3月27日（金）に執り行われました。また、同日4期生11名の前期臨床研修を無事修了し、平成20年度、当院からは11名の前期臨床研修修了医が巣立ちました。

今年も例年同様全員が沖縄県に留まる訳では有りませんが、ささやかながら沖縄県の医療界に貢献しているのではないかと自負しています。指導医の先生方や看護師さん達をはじめ多くの医療スタッフや事務職員の支援・協力無しには達成できません。また、近隣の開業医、医療機関の先生方の温かいご支援・ご協力のもとに、研修医の地域医療研修を受け入れて下さいましたことに、改めて感謝申し上げます。

現在、那覇市立病院の研修医は後期臨床研修医の2期生2名、3期生6名、4期生6名、5期生の12名に6期生の12名が加わり38名が院内を蠢いております。その他にも琉大附属病院から短期研修で救急科をローテーションしております。研修医の初々しく活気のある溌剌とした行動、患者さん達への真剣な眼差しを身近で観ていますと、私達も身が引き締まる思いです。病院全体が若いパワーの息吹を受けて活気があります。同時に研修医への取り組みを一層充実させなければならないと意を強くしています。

新入研修医は初期臨床研修を堅実に修得し、周囲の方々との協調性を大切に、そして何よりも患者さんへの心配りができる人間味豊かな、温かみのある医師に育って欲しいと願っています。また、周囲の方々の更なる御支援、御鞭撻をよろしくお願い申し上げます。

第1回　那覇市立病院後期臨床研修終了式
向かって左から、平山 良道（鳥取大学附属病院 小児科）、知念 順樹（九州がんセンター 外科）、與儀 實津夫院長、金城 譲（那覇市立病院 消化器内科）、伊禮 聡子（千葉がんセンター 外科）、新垣 洋平（那覇市立病院 小児科）；敬称略、（　）内は赴任先
平成21年3月27日（金）

第４回　前期臨床研修修了証交付式
向かって前列左から、中澤 明里（東京大学附属病院 産婦人科）、親川 真帆（琉球大学附属病院 産婦人科）、與儀 實津夫院長、今給黎 亮（那覇市立病院 小児科）、佐久間 淳（国境なき医師団）、佐々木 高信（南部徳洲会病院 外科）、後列左から、仲西 由希子（琉球大学附属病院 眼科）、古波蔵 都秋（那覇市立病院 小児科）、座間味 亮（那覇市立病院 内科）、喜瀬 高庸（那覇市立病院 内科）、大平 哲也（那覇市立病院 内科）、上里 迅（りんくう総合医療センター 耳鼻咽喉科）；敬称略、（　）内は赴任先
平成21年３月27日（金）

第６回　臨床研修医採用者（６期生）辞令交付
前列左から東江 ゆりか（琉大医）、與儀 實津夫院長、上間 美起子（琉大医）、中段左から伊佐 鮎美（琉大医）、赤嶺 有衣子（琉大医）、城間 裕子（弘前大医）、丹波 和奈（琉大医）、後列左から知花 朝史（琉大医）、玉城 昭彦（山口大医）、金城 典人（長崎大医）、與那嶺 圭輔（琉大医）、徳永 孝史（琉大医）、平良 祐介（琉大医）；敬称略、（　）内は出身大学
平成21年４月１日（水）